

サファイア[sapphire]



サファイア

サファイアの開示コメント表

鉱物名	カラー/透明度	宝石名	方法	開示コメント	備考
天然コランダム	◇各色	□□□・サファイア（カラー・バラエティー・ネームの付記は任意）		加熱の痕跡は認められません	※S4
			加熱	通常、加熱が行われています※S4	※S2
				加熱が行われています	※S1
		拡散加熱	外部からの元素の拡散加熱処理が行われています	※S3	
天然コランダム+鉛ガラス		スター・サファイア			※S5
		ルビー（サファイア）+鉛ガラス	拡散加熱	外部からの元素の拡散加熱処理によるアステリズムを認む	※S6
鉛ガラス含浸	鉛ガラスの含浸処理が行われています 表示重量には鉛ガラスの含浸物質も含まれます		*RS1		

サファイアはルビーと同じくコランダムと呼ばれる鉱物の宝石変種です。純粋なコランダムは無色ですが、地球内部でわずかな種々の成分を取り込むことでブルー、ピンク、パープル、イエローなどのさまざまな美しいサファイアが生まれます。通常、色名に関して〇〇サファイアと呼ばれますが、ピンクとオレンジの中間色相を持つサファイアはパパラチャ・サファイアと呼ばれ人気を博しています。

自然界で結晶が成長する際には完全ということはありません。したがって、サファイアの色合いにも暗味や余分な色合いが生じてしまいます。

世界で流通するサファイアの多くはこの余分な色味を取り除いたり、色調を整えるために加熱が施されています。加熱という宝石の潜在的な美しさを引き出す処理については国際的にも広く容認されており、この技術により、美しい色のサファイアが比較的安価で入手し易くなっています。

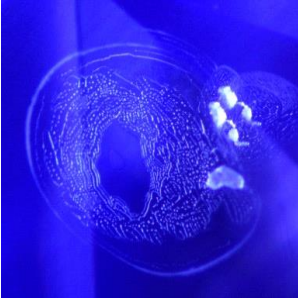
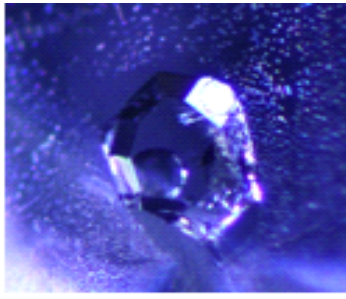

宝石鑑別書においては、標準的な鑑別検査の範囲において加熱の痕跡が認められれば“加熱が行われています”とコメント欄に記載します※S1。また、確証が得られないケースでは、“通常、加熱が行われています”というように“通常”という接頭語を用いて記載されています※S2。これはサファイアという宝石は一般的には加熱されているのですが、このサファイアについては確証が得られませんでしたという意味合いです。

最近の加熱技術の進展で、宝石の潜在的な因子に関係なく、着色に直接あるいは間接的に関与する元素を外部から添加する手法が確立されています。この処理が施されたサファイアは“外部からの元素の拡散加熱処理が行われています”とコメントされます※S3。

また、この技術を駆使してパパラチャカラーにされたものは価値評価の観点からパパラチャ・サファイアとは呼ばれていません。

多くのサファイアが加熱されている中で、少数ながら非加熱のサファイアも存在しています※S4。非加熱だか

ら価値が高いということではありませんが、市場では安定的な人気を得ています。加熱の履歴に関する検証には高度な分析機器による検査が必要で、鑑別書とは別に分析報告書として検査報告が行われています。

		
<p>加熱を示唆する包有物 開示コメント*S1</p>	<p>非加熱ブルーサファイアの包有物 開示コメント*S2又はS4</p>	<p>外部からの元素の拡散加熱処理 開示コメント*S3</p>

スター・サファイア [star sapphire]



スター・サファイア



ブルーサファイアのシルクインクルージョン



外部からの元素の拡散加熱処理による人為的なアステリズム

開示コメント*S3

ルチル等の細かい針状結晶（シルク・インクルージョン）を多数内包したサファイアを山高のカボション・カットにすると光の反射によりアステリズムと称される6条のスター効果が現れます。これはサファイアが結晶化する際にコランダム（ルチル）の六角柱状の結晶構造に規制されてルチルの成分であるチタン（Ti）がシルク・インクルージョンとして析出することに因ります。

たいていのスター・サファイアはカット・研磨以外の人的処理は施されておらず、宝石鑑別書のコメント欄には記載事項は無く空欄にされています※5。

しかし、アステリズムを明瞭にする目的で人為的にシルク・インクルージョンをカボションカットの表層付近に析出させたものは、“外部からの元素の拡散加熱処理による人為的なアステリズムを認む”とコメントされます※6。

